

(別記)

## 矢部地域農業推進協議会水田フル活用ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当地域は、県内でも高齢化、過疎化が進み、65歳以上の高齢者が住民の約49%を超える限界集落の発生がみられるようになってきている地域である。

地形も、矢部川へ6本の支流が流れ込む複雑な地形の狭隘な場所に小面積の棚田や段々畑が点在している。このような地理的条件のもと、茶の生産と併せ、高冷地であることから、花き（りんどう・ユリ）・いちごの生産が行われている。

農家の状況としては、大半は零細な兼業農家であり収益性も低いことから、専門化や後継者の育成が進み難い状況にあるとともに、農業者の高齢化に伴う耕作放棄地の急速な拡大が懸念される。

今後においては、農業の振興を図るためには、気象条件や中山間地域としての特性を活かした事業の展開が不可欠である。そのためには、経営基盤の確立、優れた経営感覚をもつ農業者の育成、農地の流動化対策、高齢者や女性層が参加できる生産形態、特産品の開発等と併せ、時代に即応した生産組織の育成強化を図ることを基本指向として農業振興策の立案が喫緊の課題である。

### 2 作物ごとの取組方針

#### (1) 主食用米

矢部地域の水稲生産は、経営規模が小さく、水田の面積が極小である為、作業効率性に劣ることから生産コストが高い状況にある。今後、米需要動向を踏まえながら当地域の特性に合う品種の作付を行い、米の消費・販売の拡大に努める。

#### (2) 野菜・花き

##### ①いちご・トマト・なす・アスパラガス・ねぎ・菊

八女市全体において奨励作物となっており、中山間地域の特性を活かした振興品目とし、水田を活用する生産性の高い作物として産地交付金を活用し、奨励していく。具体的には、H25年度現状3.40haを目標年の平成28年度には3.62haに作付面積の維持・拡大する。

##### ②その他野菜・花き（りんどう・ユリ）等

中山間地域の条件を活かしたその他野菜及び花き（りんどう・ユリ）についても産地交付金を活用し、収益性の高い農業経営を目指し、作付面積の維持・拡大を図る。

##### ③茶・柚子

中山間地域の条件を活かした茶・柚子等についても産地交付金を活用し、収益性の高い農業経営を目指し、作付面積の維持・拡大を図る。

#### (3) 不作付地の解消

不作付地の解消については、小規模の水田において直売所向けの作付を推進する。また、産地交付金を活用し、対象作物の作付により耕作放棄地の解消に努める。

### 3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 25 年度の作付面積 (ha)	平成 27 年度の作付予定面積 (ha)	平成 28 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	59	60	60
飼料用米			
米粉用米			
WCS 用稲			
加工用米			
備蓄米			
麦			
大豆			
飼料作物			
そば			
なたね			
その他地域振興作物	7.22	7.31	7.92
野菜	5.61	5.70	6.10
・いちご	3.34	3.34	3.50
・トマト	0.02	0.02	0.03
・なす	0.02	0.02	0.03
・アスパラガス	0.01	0.01	0.02
・ねぎ	0.01	0.01	0.02
・その他野菜	2.21	2.30	2.50
花き	1.61	1.61	1.82
・菊	0.00	0.01	0.02
・その他花	1.60	1.60	1.80

### 4 平成 28 年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成 25 年度 (現状値)	平成 27 年度 (予定)	平成 28 年度 (目標値)
1	いちご	八女市戦略作物 (いちご)	ア	実施面積	3.34ha	3.34ha	3.50ha
2	トマト	八女市戦略作物 (トマト)	ア	実施面積	0.02ha	0.02ha	0.03ha
3	なす	八女市戦略作物 (なす)	ア	実施面積	0.02ha	0.02ha	0.03ha
4	アスパラガス	八女市戦略作物 (アスパラガス)	ア	実施面積	0.01ha	0.01ha	0.02ha
5	ねぎ	八女市戦略作物 (ねぎ)	ア	実施面積	0.01ha	0.01ha	0.02ha
6	菊	八女市戦略作物 (菊)	ア	実施面積	0.00ha	0.01ha	0.02ha

※「分類」欄については、要綱（別紙11）の2（5）のア、イ、ウのいずれに該当するか記入して下さい。  
（複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか1つ記入して下さい。）

ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組

イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組

ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組